

自己評価報告書

平成23年 4月 1日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20730117

研究課題名 (和文) 多国籍軍をめぐる包括的データセットの構築とその分析：国際法と国際政治の視点から

研究課題名 (英文) Data Creation and Analyses on International Military Coalitions

研究代表者

多湖 淳 (TAGO ATSUSHI)

神戸大学・大学院法学研究科・准教授

研究者番号：80457035

研究分野：政治学・国際関係論

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：多国籍軍、有志連合、国際政治と国際法

1. 研究計画の概要

本研究プロジェクトは、多国籍軍（または有志連合）をめぐるデータセットを構築し、それを国際政治学に依拠しつつも国際法に対して十分な配慮を払い、多面的に分析する試みである。

研究の最終目標は、英語によって論文を作成し、それを査読審査を経て国際的な学術雑誌を通じ公表することにある。

2. 研究の進捗状況

初年度と2年目にあつては主にデータセットの構築を進めるとともに、一部の研究成果については海外の学術雑誌に投稿し、公表することに成功した（*Journal of Peace Research* 誌2009年）。

当初、研究を進めるにあつては、多国籍軍の形成、維持、終了といった「段階」に応じた政治過程を分析・抽出することとし、それぞれについて別個の論文を作成することを想定していたが、終了段階における政治過程の研究について2年目には具体的成果が得られたことになる（具体的には、多国籍軍からの離脱にあつて政権交代よりも選挙サイクルの影響がより強いことを示した）。なお、まだ博士論文やワーキングペーパーにとどまるものの、これを肯定的・批判的に引用する研究が増えており、多くの後続研究を生みつつある点は顕著な学問上の成果として強調できよう。

多国籍軍の形成と維持段階についても選挙サイクルの影響をはかる研究を3年目に進め、計量分析の結果、選挙が1年以内に近づいている民主主義国の場合、多国籍軍への参加の可能性が8割程度下がることがわかった。国家のリーダーが保持する情報と一般国民

が持つ情報の格差の存在がこのような現象の背後にある。この分析については3年目終了時点でワーキングペーパー化し、2011年6月の European Political Science Association 年次大会で口頭発表する予定である。

他方、国際政治と国際法の有機的連関を意識して研究をすすめるという点では多国籍軍の依拠する集団的自衛権（国連憲章51条）に関するデータセットを2年目から形成し始め、分析を行い、成果をまとめつつある（これについては2010年2月にニューオーリンズにおいて学会報告を行った）。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

初年度に他（海外）のデータプロジェクトとの関係で一部研究方針を変更したものの、すでに有志連合の終了段階について成果を英語の学術雑誌を通じて発表できたとともに、継続して論文を公表するための準備を進めてきており、おおむね順調に進展していると判断できる。

査読審査に時間がかかるために2012年の研究終了時点で印刷・刊行されていることは難しいかもしれないが、計画の狙い通り数年以内に多国籍軍をめぐる政治過程を理論的かつ実証的に解明する研究論文を広く国際的に公表できる予定である。

4. 今後の研究の推進方策

この数年で多国籍軍・有志連合をめぐる理論・実証研究が増えてきているため、類似研究との差別化を考える必要がある。たとえば、研究代表者が発表した研究を引用した学術

論文・書籍・ワーキングペーパーが複数確認でき（例、Lake 2009; Thompson 2009; Wivel and Oest 2010; Ulrich 2010; Vucetic 2011）、これらとの関連を明示し、かつうまく違いを出しながら研究成果をまとめることが重要になってきている。

このため、学会での口頭発表や、未刊行のワーキングペーパーなどを通じて最新の研究動向を見極め、査読審査を通過しやすい設定と理論的な意義づけを行い、研究を進めていきたい。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

1. Tago, Atsushi. 2009 "When Are Democratic Friends Unreliable?: The Unilateral Withdrawal of Troops from the Coalition of the Willing," *Journal of Peace Research*. 46(2): 219-234. 査読あり。
2. Tago, Atsushi. 2008 "Is There an Aid-for-Participation-Deal?: US Economic and Military Aid Policy to Coalition Forces (Non)-Participants" *International Relations of the Asia-Pacific* 8(3) : 379-398. 査読あり。

〔学会発表〕（計2件）

1. Tago, Atsushi. 2010 "Why Do States Publicly Invoke the Right of Self-Defense during Wars?," *International Studies Association - Annual Meeting in New Orleans, February 2010.*
2. Tago, Atsushi. 2008 "Is There an Aid-for-Participation-Deal?: US Economic and Military Aid Policy to Coalition Forces (Non)Participants," *American Political Science Association - Annual Meeting in Boston, August 2008.*

〔図書〕（計1件）

1. 多湖淳『武力行使の政治学 単独と多角をめぐる国際政治とアメリカ国内政治』千倉書房（260ページ）。

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ

<http://www2.kobe-u.ac.jp/~tago/>

<http://www.researcherid.com/rid/A-9716-2009>

<http://researchmap.jp/tagoatsushi/>